トコ・インドと政治
－台湾で見るインドネシアの選挙－
Toko Indo and Politics: Indonesian Election in Taiwan

柴山　元（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科）
SHIBAYAMA Gen（Graduate School of Asian and African Area Studies, Kyoto University）

現在台湾には約 30 万人のインドネシア出身の移民が居住している。彼らは、移民時期や移民理由を基準に、①帰国華僑、②留学生、③元留学生のホワイトカラー移民、④婚姻移民、⑤移民労働者に大別できる。このなかには、台湾人との婚姻や長期居留を経て中華民国籍に帰化した者（①、③、④）も含まれるが、人口比的には、②留学生（インドネシア移民全体の約 6%）や⑤移民労働者（同約 87%）など、インドネシア国籍を保持するものが大部分を占める。

そのため、5 年に一度のインドネシア大統領選挙および国政選挙は、在台インドネシア移民社会においても大きな関心事となる。2010 年代にインドネシア移民労働者が増加し社会での存在感を強めていた台湾では、2014 年の選挙から全国各地に在外投票用の投票所が設置されるようになった。これ以降の選挙で、インドネシア移民たちは自らの手で投票箱に票を投じることが可能となった。特に、これらの投票所の大部分がトコ・インド（*toko Indo*）と呼ばれる、全国に点在するインドネシア商店／レストランに設置されたことは注目に値する。

本発表は、2024 年 2 月 14 日に実施されたインドネシア大統領選挙・国政選挙に着目し、台湾においてこの選挙にまつわる各種の活動がいかに行われたかを明らかにする。特に、上述のトコ・インドでの人々の動きに焦点を当て、特定のトコ・インドが投票所に選定される理由や投票当日の様子、投票所スタッフの作業内容などを概観する。また、在台インドネシア移民が台湾で行う政治活動にも目を向け、在台インドネシア移民はどのような団体を組織して選挙に参加しているのか、また、インドネシア国籍をすでに放棄したインドネシア移民はこの選挙にいかに関わっているのかという点を明らかにする。